

ご来館の記念にお寄せいただいたご感想

2023年（令和5年）10月からの抜粋



- もっと早くに伺いたかったです。心が今、少しふるえております。短くても確かな人生を、花や家族を愛して過ごされてきたことに、思わず手をあわせてしまいました。子ども達に絵本を読んでいます、三橋さんの作品も伝えていければと思っています。
- 9歳の小学生の息子と来館しました。わたしは母の目線で、女性の目線で、心に残る世界を感じられました。息子は草花や物語の世界を楽しみながら、絵の美しさに浸っていました。子どもも大人もひかれる魅力、やさしさ・・・すてきな時間を過ごせました。
- 大学の授業で三橋さんの絵が紹介されて、「湖の伝説」を読みました。子をおもう母親の気持ちが絵になって私たちの心に伝わってくる・・・。“絵”はそれほどの力があるものかと、改めて考えさせられました。“伝えようとして伝わるものではない”と思いました。“深い思いをもって描く心”が絵の中に静かに込められ、それが伝わってくるのだと思います。私も絵を描きながら、自分は何のために描くのかと、わからなくなることがあります。三橋さんの絵から今日はたくさんを学びました。ありがとうございました。

- 宿泊したホテル周辺の地図を見ていたら、たまたまこの美術館があることを知った。私はよく旅先でも美術館巡りをするし、自分でも絵（主に油絵）を描く。通信で美大（京都芸大）にも通った。絵は、その画面から受ける印象とともに、それを描いた人の生き様を知ること、画面に表出され得ないその根底にあるものに出会える。三橋節子さんの絵からは、私は何とも言えない深い悲しみと慈しみと残していく人への愛を感じた。
今初めて知り出会ったことによって、これからの人生になにがしかの影響を及ぼすように感じる。ありがとうございました。
- 人生と向き合う時間をつくるためにまた来たいです。家族愛にあふれた絵を見て、とてもあたたかい気持ちになりました。ありがとうございました。
- 足元にある小さき草花、樹々の根、目に見える湖や空、その間をふく風。そしてそばにいる家族。さらには目には見えない神聖なるもの。節子さんを通じてそのひとつひとつにふれることができました。
美しさとはなにか、命とはなにか、大切なことを教えてくださりありがとうございました。
- 植松三十里さんの小説を読み、私も妻も感激しました。2人で訪問してよかったと思います。三橋さんの人生ははかない35年でしたが、彼女の気持ちは絵に現われ、子供を愛し、ひたすらに絵に正面からむかっただけの心は、人間にとり大事なものは何かを訴えています。
奈良からやってきて満83歳のいい誕生日になりました。ありがとうございました。
- 長等公園を散歩していて、たまたま寄らせてもらいました。名前は知っていましたが、作品をじっくり観るのは初めてでした。朱色がとても美しく力強さを感じる作品が多いのにビックリ！！
右手を失われても以前と変わらない作品にはおどろかされました。「花折峠」のたくさんの野草にひきつけられました。また寄らせてもらいたいです。
- 何度も何度も来たくなる。
いつ来てもちがうものがみえる。
みえないエネルギーがあふれている。
- 以前に小学校で絵本の読み聞かせのボランティアをしていた時期に選んだ絵本に会えてなつかしかったです。
本物の絵に対面すると、力強さと色づかひに驚かされました。（絵本ではやはり小さいので）また、植物の細々とした美しさに見惚れてしまいました。
自宅にあるツリガネソウやホタルブクロなど「花折峠」の絵をじっくり見てしまいました。また近いうちに是非再訪させていただきます。
- 三回目の訪れです。
今日が一番感激しました。来る度に感慨深く感動しています。自分の気持ちと向き合えて……。1回目 30年前くらい、2回目 10年前、3回目 2024年。次回は80才になって来ようと思います。それまでにくるかも？(77才 女性)

- 祖母と母と訪れました。言葉では伝えきれないことが多くてやりきれないけれど、ここにある絵はまっすぐ静かに熱く届けられていると感じました。来られて良かったです。おばあちゃん教えてくれてありがとう。
- 子どもの頃、地元的美術館で三橋さんの展示があり、母が作品を気に入り、「三井の晩鐘」のポスターがずっと家に飾ってありました。
その記憶から、関西に来る機会を得て足を運びました。
淡い色あいに、民話にのせた作品にこめられた愛情や悲しみに、涙が出ました。
多くは語らなくても、一枚の作品に全てを込めた絵は、人の心に生き続けるのだと感じました。
ありがとうございました。
- 三橋節子さんのことをよく知らずに参りましたが、母となつてごく短い間しかその愛を子供たちに注げないとわかって、別れの日まで注ぎ尽くした愛の大きさは、そのまま絵となって遺されていることに心打たれました。
琵琶湖の自然の豊かさがその絵筆に力を与えたことにも感じ入ります。生と死は同じ所にあり、この琵琶湖はたくさんの伝説をまといながら、その象徴のような存在であることに想いを馳せさせられました。
- TV 放映で三橋節子さんのことを知り、今日ようやく訪問することができました。じっくり鑑賞することができて、心が喜んでいきます。
あまりに美しい草花と節子さんの死への向かい方に、凡人の私にははかりしれない覚悟、強さ・・・にとまどいます。
芸術のすごさのほんの少しだけわかったような気がします。ありがとうございました。
- “淡い色彩のやさしさ” でなく、“深い色彩” にもこんな優しさがあるんだと知りました。
人として母としての強い優しさ、お子さんが私の同じ歳・・・胸が痛くなります。
- 何回来ても・・・美しくおだやかな色彩と草花人物に心がなぐさむように思う。
ほぼ同じ世代だけに、自分の35才はどうだったか・・・と想うところした素晴らしい絵を残された節子さんのすごさがわかる。本当に大切に大切にと思うが、反面もっと多くの人々に見てほしいとも思う。
- 滋賀県立美術館での「鬼子母神」が印象に残り、調べてそのまま来ました。
「芸術って何だろう」と思うことが増え、考えれば考えるほど苦しくなる日々にやっと光が出てきました。節子さんのおかげです。いつか会いたいです。

令和6年10月分まで